

# 信州大学医学部再開発事業

(臨床講堂等の内部設備の整備・充実)

## 募金趣意書



耐震改修後の医学部臨床棟(東側)

# 信州大学医学部再開発事業

(臨床講堂等の内部設備の整備・充実)

## 募金の趣旨

信州大学医学部再開発事業は、学生のみなさんに、より良い学習環境の場を提供し、医学教育の充実を図るため、臨床講堂等の内部設備の整備・充実を目的とした事業です。

信州大学医学部医学科の基礎棟、臨床棟は、昭和34年～43年にかけて整備された建物で、既に建設後半世紀近くを経過し、耐震性能が低く、これまで文部科学省に対し、耐震改修を強く要望してまいりました。その結果、平成20年度には、当初予算及び補正予算において臨床棟について予算措置がなされることとなり、本学としては、残る基礎棟についても、予算要求を行うことで計画的に耐震改修事業を進めたいと考えています。

今回の耐震改修事業の対象となった臨床棟については、耐震改修と合わせ、教育環境の充実のため臨床講堂の機能改善を考えたところでありますが、現在の国の厳しい財政状況下においては、私どもの計画する整備内容までは、予算的な手当がなされないのが実情であります。また、第2実習室（新視聴覚室）の整備についても、内容が機能改善のみであるためこれについても国の補助金による手当がむずかしいところです。

私どもが計画している臨床講堂等の機能改善は、今後とも優秀な学生を育てていく上で、きわめて重要な役割を果たすものと認識しており、そのための資金を皆様のご支援、ご理解の下、何とか確保したいと考えております。

つきましては、昨今の厳しい経済情勢の下でのお願いでまことに恐縮ではありますが、今回の私どもの考えに是非ご賛同いただき、格別のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

# ごあいさつ

信州大学長  
小宮山 淳



## 医学部の主な沿革

- 昭和19年 3月 松本医学専門学校設置
- 昭和23年 2月 松本医科大学設置
- 昭和24年 5月 国立学校設置法の施行により信州大学が設置(松本医学専門学校及び松本医科大学は信州大学に包括)
- 昭和26年 4月 医学部医学科設置認可(入学定員60名)
- 昭和33年 4月 大学院医学研究科(博士課程)設置
- 昭和47年 4月 医学科入学定員 100名
- 昭和49年 6月 医療技術短期大学部設置
- 昭和52年 4月 医療技術短期大学部に専攻科助産学特別専攻設置
- 平成12年 4月 医学科入学定員 95名  
大学院医学研究科臓器移植細胞工学医科学系専攻(独立専攻)設置
- 平成14年 4月 医学科3年次編入学定員 5名  
大学院医学研究科修士課程(医科学専攻)設置
- 平成14年10月 医療技術短期大学部を改組し、保健学科設置(学生入学定員143名, 3年次編入学定員17名)
- 平成15年 4月 大学院医学研究科の5専攻(生理系, 病理系, 社会医学系, 内科系, 外科系)を医学系専攻に改組  
大学院医学研究科加齢適応医科学系専攻(独立専攻)設置
- 平成15年11月 医学教育センター設置(学部内措置)
- 平成16年 4月 国立大学法人法により、信州大学は、国立大学法人信州大学が設置する国立大学となった。
- 平成17年12月 医学教育・地域医療学講座(寄附講座)設置
- 平成19年 4月 大学院医学系研究科修士課程(保健学専攻)設置
- 平成20年 4月 医学科入学定員 105名(新医師確保総合対策)3年次編入学定員廃止
- 平成21年 4月 医学科入学定員 110名(経済財政改革の方針2008)  
大学院医学系研究科保健学専攻(博士後期課程)設置  
地域医療推進学講座(寄附講座)設置



臨床講義(昭和28年4月)



医学部本館(昭和28年8月)



医学部正門より見た附属病院北病棟(昭和31年)

信州大学は、昭和24年に長野県内の旧制高等学校や高等専門学校、師範学校などを前身として、それぞれの地にキャンパスを置く新制の国立大学として発足しました。以来、各学部、大学院などの改組拡充が行われ、現在の8学部、8大学院研究科を有する総合大学として発展しつつあります。平成16年4月から、高等教育の一大改革である国立大学法人化という歴史的転機を経て、自主性・自立性を念頭に諸課題に取り組む中、今年で創立60周年を迎え、これまでに約8万人の有意の人材を輩出しております。現在、教員数約1,100人、在学生約11,500人が松本、長野、上田、南箕輪の各キャンパスで精力的に活動しています。

発足以来、「地域に根ざし、世界に拓く」を標榜し、地域の「知」の拠点として、信州の歴史や文化、気候風土に根ざした特色ある先進的な教育研究成果を広く国内外に発信してきました。

信州大学医学部は、これまで一貫してわが国の医学教育を牽引し、国際レベルの医学研究成果を重ねてきました。長野県は、平均寿命が全国トップクラスであるとともに、一人当たりの老人医療費が全国で最低であることなどから、全国的に注目される健康長寿県であります。このような長野県の保健医療に本学医学部が少なからず貢献したことは申すまでもありません。

ところで、昨今の国が抱える財政問題は大学にも深刻な影響を与えています。特に教育予算の削減は、大学運営の根幹に関わる問題であり、大学の努力による自主財源の確保が不可欠となっております。このような状況のもとにあっても、私どもは学生にとってより良い学習環境の整備に最善の努力を怠りません。

信州大学医学部再開発事業募金は、本学医学部の学生及び大学院医学系研究科の社会人を含む大学院生たちに充実した学習の場を提供し、自由闊達な教育と研究活動を支援していきたいとの思いからお願いするものであります。ご理解とご賛同いただき、格段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

実行委員長  
信州大学医学部長  
久保 恵嗣



信州大学医学部は、昭和19年3月に松本医学専門学校が創立されて以来、65年に及ぶ長い歴史と伝統を刻んできました。これまでに5千有余名を超える卒業生を輩出、活躍の場は、国内のみならず海外にも及び、地域医療への貢献、国際貢献、医学・医療の発展などに尽力されていることは松医会報などで知るところであります。

平成16年4月からの国立大学法人化後、国からの運営費交付金が毎年1%ずつ削減され、これを補うために外部資金や各種の競争的資金の獲得が求められています。幸い、本学部は、平成18年度「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」、平成20年度「がんプロフェSSIONAL養成プラン」・「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」などの補助金を獲得することができました。今後も地域医療の発展、教育・研究の充実のために、外部資金の獲得に努力する所存であります。

信州大学医学部医学科の基礎棟、臨床棟は、昭和34年～43年にかけて整備された建物で、既に建設後半世紀近くを経過し、耐震性能が低く、これまで文部科学省に対し、耐震改修を強く要望してまいりました。その結果、平成20年度には、当初予算及び補正予算において臨床棟について予算措置がなされることとなり、本学としては、残る基礎棟についても、予算要求を行うことで計画的に耐震改修事業を進めたいと考えています。

今回の耐震改修事業の対象となった臨床棟については、耐震改修と合わせ、教育環境の充実のため臨床講堂の機能改善を考えたところでありますが、現在の国の厳しい財政状況下においては、私どもの計画する整備内容までは、予算的な手当がなされないのが実情であります。また、第2実習室（新視聴覚室）の整備についても、内容が機能改善のみであるためこれについても国の補助金による手当がむずかしいところです。

私どもが計画している臨床講堂等の機能改善は、今後とも優秀な学生を育てていく上で、きわめて重要な役割を果たすものと認識しており、そのための資金を皆様のご支援、ご理解の下、何とか確保したいと考えております。

つきましては、医学部医学科の現・旧教職員のみならず、同窓会である松医会を中心に、父母会や関連企業・法人などの幅広いご支援をお願いするところであります。

昨今の厳しい経済情勢のもとでのお願いで誠に恐縮ではございますが、是非、ご賛同いただき、格別のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

副実行委員長  
医学部同窓会（松医会）会長  
五十嵐 修三



謹啓 時下ますますご清栄のことと拝察申し上げます。

平素より松医会に対してご協力を賜り厚くお礼申し上げます。最近、信州大学医学部附属病院の新外来棟（地上5階地下1階屋上にヘリポート）が完成して開院したところでございます。

さて、現在臨床研究棟（いわゆる旧医局）の耐震改修事業が行われているところです。第一期工事研究棟の東半分（工事費4億円）が終了し、現在第二期工事が行われているところでございます。第二期工事は研究棟の西半分及び臨床講堂で、こちらの工事費は6億円でございます。

第二期工事の対象となっている、我々が使っていた臨床講堂については、耐震改修と合わせ、教育機能を向上させるための整備を行いたいと考えており、このため、同窓会の力を結集したいと思っております。

医学を学ぶ学生達のために立派な臨床講堂をプレゼントしようではありませんか。

昭和19年に医学専門学校が開設されて以来、65年の間に卒業された同窓会員数は約5,000名となり、医専1期生から現在の卒業生は61期目に当たります。医学生は約600名です。

同窓会としましては、過去2回の募金活動がございました。第1回目は昭和52年から54年にかけて同窓会館（旭会館）の建設にあたって9,300万円の募金を頂きました。それに文部省からの資金を加え、合わせて4階建ての立派な同窓会館が出来上がったもので、それが以後松医会の会合に、又多くの学生や職員の方々に多岐にわたり利用されております。

第2回目は平成4年から6年にかけて医学部創立50周年記念事業として、長野県の医学医療振興及び、医療水準向上を目的として設置した信州医学振興会財団法人設立に際し、募金活動をしました。最終的には3億円の寄付金が集まりました。

この信州医学振興会は医学研究の助成、医師・看護師及び医療関係者の教育・研修、学术交流への助成及び住民に対する予防医学的事業への助成を行い、高い水準の地域医療体制と健康で豊かな地域社会の実現に寄与しており、地域に根ざした特定公益増進法人となっております。

今回は第3回目の募金活動になります。皆様もどうかこの趣旨にご理解とご賛同をいただき、格段のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

謹白

# 医学部再開発事業実行委員会

実行委員長	信州大学医学部長	久保 惠嗣
副実行委員長	信州大学医学部同窓会(松医会)会長	五十嵐修三
〃	〃 医学部同窓会(松医会)副会長	赤羽 清夫
〃	〃 医学部同窓会(松医会)副会長	竹前 紀樹
〃	〃 医学部同窓会(松医会)副会長	井川 靖彦
〃	〃 医学部附属病院長	小池 健一
〃	〃 医学部副学部長	西澤 理
〃	〃 医学部副学部長	福嶋 義光
〃	〃 医学部学部長補佐	池田 修一
〃	〃 医学部副学部長(事務担当)	金井 正志

※敬称略

## 実行委員 (信州大学医学部同窓会(松医会)理事)

石曾根滋雄	塩澤 久要	前澤 正久
石曾根新八	関 龍幸	前田 敏明
岩浅 武彦	多田 剛	松田 國昭
薄井 尚介	張 洛善	森本 雅巳
大野 伸一	都筑 重利	峯村 直
奥平 貞英	恒元 秀夫	
神谷 健	中田 和義	
川原 信義	中野 武	
栗林 士郎	野口 浩	
小泉 陽一	藤本 圭作	
小金平 稔	本郷 実	
坂井 昭彦	前沢 信義	

※五十音順・敬称略

## 実行委員 (信州大学医学部医学科・大学院医学系研究科教授)

相澤 徹	鎌田 徹	中山 淳
青山 俊文	川眞田樹人	能勢 博
浅村 英樹	倉科 憲治	野見山哲生
天野 純	小山 省三	橋爪 潔志
天野 直二	佐々木克典	樋口 京一
池田 宇一	塩沢 丹里	本郷 一博
宇佐美真一	新藤 隆行	本田 孝行
大橋 俊夫	鈴木 龍雄	松尾 清
大森 栄	瀧 伸介	宮川 眞一
岡元 和文	竹下 敏一	村田 敏規
加藤 博之	田中 榮司	森泉 哲次
角谷 眞澄	谷口俊一郎	山田 充彦

※五十音順・敬称略

# 医学部臨床講堂改修後の完成予想図



# 医学部再開発事業の概要

## 第1臨床講堂

現在163席で床の高低差が2m60cmあります。授業を受ける学生が教員を見下ろす配置となっており、講義室としては大変使いにくい配置となっています。

改修後は、床の高低差を60cmにし、座席数は130席となりますが、教育効果に配慮してプロジェクター、書画カメラ、ビデオ、DVD等の映写ができるようにします。各席にはノートパソコンを持ち込んでの授業ができるように電源と情報コンセントが備え付けられたマルチタイプの講義室として改修する予定です。

### 旧第1臨床講義室(旧第1臨床講堂)



座席数163、床の高低差が260cm

### 旧第2臨床講義室(旧第2臨床講堂)



座席数230席、床の高低差が360cmのすり鉢型

## 第2臨床講堂

現在230席で床の高低差が3m60cmあります。第1臨床講堂と同じようにすり鉢タイプの教室となっており、使いにくい講義室であるとともに階段が急であるため安全性の面からも問題がありました。

改修後は、床の高低差を75cmにし、座席数は240席となり、第1臨床講堂と同じ仕様のマルチタイプの講義室として改修する予定です。

## 講義棟第2実習室(新視聴覚室)

現在120席で臨床実習の授業に使用しています。

改修後はパソコン60台を常備したパソコンルームとして改修し、残りのスペースは学生の自習室として60席の学習環境を整備する予定です。

## 基礎棟耐震改修工事

平成22年度からの工事開始を目指し、現在文部科学省へ予算要求を行っています。改修工事にあたり、事業費に不足が生じた場合には、募金の一部をその財源にしたいと考えております。

## 医学部の教育・研究活動

### 「知識・態度・技術」を育む臨床実習へ

立派な医師になるためには、知識、態度、技能、考え方の面で修練が必要です。

これらを身につけるために信州大学医学部医学科では、医学教育センターを中心にして、医学教育改革（モデルコアカリキュラムの導入、卒後臨床研修を見据えた新カリキュラムの導入、Objective Structured Clinical ExaminationやComputer-Based Testingの導入など）を順調に実施しています。



OSCE (Objective Structured Clinical Examination) 風景



CBT (Computer-Based Testing) 風景

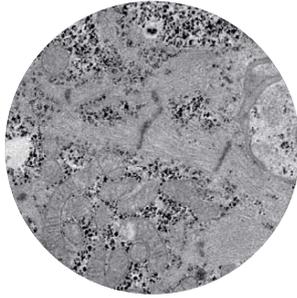
### 「総合大学」の強みを生かす試み

臓器移植細胞工学、加齢適応医学、ヒト胚性幹細胞（ES細胞）の研究や、工学部のナノカーボンを医学に応用するという総合大学ならではの共同研究も進んでいます。



#### 加齢適応医科学系専攻（独立専攻）

私たちは「健康長寿県・長野」において、過去12年間「熟年体育大学事業」を実施し、個別運動処方を中心に、栄養、メンタル指導などを行う「包括的予防医療介入」を実施してきました。その特徴は「介入効果に関して遺伝子背景を含め4,000名規模のDBを構築したこと」と「産官学民の共同事業に発展させたこと」です。今後、各自治体、地元医療機関との連携を強化し、さらにMayo Clinic、Yale大学など国外研究機関の協力を得て「包括的予防医学」の国際教育研究拠点をめざします。



ヒトES細胞由来心筋細胞の電顕像  
by Ichikawa



マウスiPS細胞  
by Ichikawa

### ヒトES細胞研究と再生医療

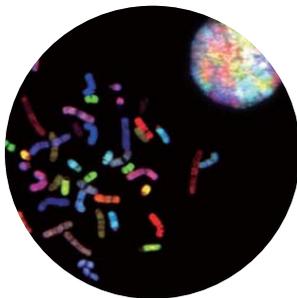
2009年、オバマ大統領はアメリカにおけるヒトES細胞研究を全面的に解禁し、再生医療は実質的な局面を迎えました。信州大学は早期よりヒトES細胞の研究に着手し、骨髄幹細胞の臨床応用を試み、ナノテクと再生医療の統合化を目指すなど、新しい局面に対応するために準備を進めてきました。今後、再生医療は信州大学が強みを発揮できる大きな領域の一つになるでしょう。



遺伝倫理についての検討会風景

### 遺伝医学研究

遺伝学は遺伝継承だけではなく個体差をも研究する学問です。病気も個体差の一つと考えられ、近年の爆発的なヒトゲノム解析研究の成果として、数多くの疾患の責任遺伝子が発見されています。遺伝医学・予防医学講座では、遺伝子診療部と協同して、種々の難治疾患の分子遺伝学的診断、細胞遺伝学的診断を行うとともに、遺伝情報を適切に患者・家族に伝える遺伝カウンセリングを実践しています。研究としては、新しい遺伝性疾患の疾患概念の確立、責任遺伝子の単離、各種遺伝性疾患の分子遺伝学および細胞遺伝学的解析、わが国における遺伝カウンセリングのあり方、遺伝リテラシーの向上、遺伝倫理問題、など広範な領域を対象にしています。



染色体24色FISH解析

## 寄附講座「地域医療推進学講座」を設置

長野県の寄附を受け、「医師が不足する診療科における即戦力医師等の養成・供給に関する研究」を行うため本講座が設置されました。

大学や県内病院に医学系の学生が定着するような研修プログラムを検証し、地域医療を支える体制作りや人材確保を図るための研究が行われています。

また、講座の教員2名が県内病院で定期的に診療し地域医療の実態を把握する取り組みも行われています。



平成21年3月30日、長野県との間に寄附講座設置に関する協定を締結しました。

## 事業募金の概要

募 金 名 称	：	信州大学医学部再開発事業
募 金 目 的	：	信州大学医学部の教育・研究施設等の整備・充実資金
募 金 目 標 額	：	2億円
		（内訳）
		第1臨床講堂……………7,000万円
		第2臨床講堂……………8,600万円
		講義棟第2実習室(新視聴覚室)…4,400万円

○募金状況等によっては、基礎棟耐震改修工事の事業費に充てることになります。

募 金 期 間	：	平成23年3月31日まで
募 金 対 象	：	個人、法人

### ■ 個人の場合

#### 1. お申込みについて

【一口 1万円】（できましたら2口以上のご協力をお願い申し上げます。）

\*一口未満のご寄附につきましても、有り難くお受けいたします。

#### 2. 払込方法

銀行・ゆうちょ銀行又は郵便局窓口での払込み

同封の本学指定の振込(払込)用紙をご使用いただければ、八十二銀行、ゆうちょ銀行又は郵便局からの振込(払込)手数料は無料になります。なお、ご送金先は下記のとおりです。

八十二銀行(金融機関コード0143) 信州大学前支店(店番号421)  
普通預金 口座番号 791546  
受取人:(フリガナ) シンシュウダイガクイガクブサイカイハツジギョウ  
信州大学医学部再開発事業  
(ところ) 〒390-8621 松本市旭3-1-1

#### 3. 寄附金の所得税法上の優遇措置(寄附金控除)

本事業に対する寄附金については、所得税法上の寄附控除の対象となる特定寄附金(所得税法第78条第2項第2号)として、財務大臣から指定されています。したがってご寄附いただいた寄附金は、下記の基準により所得から控除され、税制上の優遇措置を受けることができます。

\*確定申告の際、年間所得額の40%を限度として、寄附金の合計額から5千円を差し引いた金額が該当する年の所得額から控除されます。

所得控除額 = 寄附金額 - 5千円

## ■ 法人の場合

### 1. お申込みについて

【一口の金額は特に定めておりません。】

### 2. 払込方法

銀行・ゆうちょ銀行又は郵便局での払込み

本学指定の振込(払込)用紙をご使用いただければ、八十二銀行、ゆうちょ銀行又は郵便局からの振込(払込)手数料は無料になります。なお、ご送金先は個人の場合と同じです。

### 3. 寄附金の法人税法上の優遇措置(寄附金控除)

本事業に対する寄附金については、法人税法上の全額損金算入を認められる寄附金(法人税法第37条第3項第2号)として、財務大臣から指定されています。ご寄附いただいた寄附金は、全額損金算入が可能です。

## 寄附金領収証及び寄附金控除のお手続き

### 【寄附金領収証の発行】

一括払込み、分割払込み(毎年払込み)の方へは、寄附金が信州大学に入金され次第お送りいたします。分割払込み(毎月払込み)の方へは、年1回、1月~12月受領分をまとめて発行し、翌年1月末までに送付いたします。

### 【寄附金控除の手続き】

寄附金控除の手続きは、ご寄附いただいた翌年の確定申告期間に、信州大学発行の「**寄附金領収証**」を添えて、所轄の税務署に確定申告をしてください。「**寄附金領収証**」は再発行できませんので紛失しないように大切に保管願います。

## 寄附者の顕彰

信州大学医学部再開発事業募金にご寄附賜りました皆様に対し、次のように寄附の記録と顕彰をさせていただきます。

### 1. ご芳名録の作成

- 1) 寄附者のご芳名、法人名を永久に保存させていただきます。(匿名希望者を除く。)
- 2) 寄附者のご芳名、法人名を、医学部ホームページにて公表させていただきます。

### 2. 銘版への記載

寄附者は、「信州大学医学部再開発事業募金寄附者銘板(仮称)」に、ご芳名、法人名(代表者)を記し、末永く顕彰させていただきます。(匿名希望者を除く。)

## 資料請求・お問い合わせ窓口

信州大学医学部 再開発事業実行委員会 事務局  
〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部内

### 【同窓会関係者】

Tel: 0263-37-3001 Fax: 0263-39-0240

E-mail: shouikai@shinshu-u.ac.jp

担当: 飯沼 進

### 【同窓会関係者以外】

Tel: 0263-37-2576 Fax: 0263-37-3083

E-mail: igakubu@shinshu-u.ac.jp

担当: 土屋 雅紀・高松 利光



信州大学医学部 再開発事業実行委員会 事務局  
〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部内  
Tel:0263-37-2576 Fax:0263-37-3083  
E-mail: igakubu@shinshu-u.ac.jp